

山梨県立甲府東高等学校 研究授業レポート

金融政策および金融機関の働きについて関心を高め、その役割について客観的に捉えられるようになること、資産形成に関して社会全体の利益も視野に入れた金融商品の運用について主体的に考察できるようにすることを目的とした授業が実施されました。

1 時間目 2021 年 10 月 6 日（水）10:05～11:00

1 時間目のテーマは「金融の役割、銀行の役割、中央銀行の役割について理解する」です。

日本銀行と民間銀行の違いと役割、日本銀行が行う金融政策、金融の自由化・国際化が日本経済に与えた影響について理解していきます。

はじめに、「銀行」と「日本銀行」の役割と機能について確認しました。

【銀行の役割と機能】

■銀行の三大業務

預金業務…預金として資金を預かる

貸出業務…預金をもとにして、貸し付けや手形割引を行う

為替業務…振込みや振替えによる送金、手形・小切手を使った支払いなどによる資金の決済

■銀行のおもな収益源

預金金利と貸出金利の差額（利ざや）や、振込みや振替え手数料

■信用創造

銀行が預金の受入れと貸出しを繰り返すことで、預金通貨を生み出していく仕組み

スライドで銀行の役割と機能を確認した後、「あなたと銀行のかかわり 動画で学ぶ銀行の仕事」を視聴し、自分たちの生活と銀行との関わりについて理解を深めました。

【日本銀行のはたらき】

■中央銀行…金融政策を実施する銀行

日本の中央銀行…日本銀行（日銀）

■日本銀行の機能

①発券銀行…日本銀行券（紙幣）を発行

②銀行の銀行

1. 市中金融機関に対して、国債や手形の売買、預金準備金の受入れを行う

2. 「最後の貸し手」として、資金繰りが困難になった市中金融機関に資金供給を行う

③政府の銀行…国庫金の出納を行う

日本銀行が行う金融政策は、公開市場操作により市中の資金量を増減させることで金融調整を行い、物価や経済の安定を図るために行われる政策であることを確認しました。

次に、金融の自由化・国際化について確認しました。

【金融の自由化と国際化】

■戦後日本の金融政策

護送船団方式・・・大蔵省（現在の財務省と金融庁）が金融機関を保護する反面、金利や業務の規制、行政指導を行うことで金融機関の自由な競争を制限



■金融の自由化（金融ビッグバン）・国際化・・・1980年代からの金融に対する規制緩和

- ①預金金利や外国為替取引の自由化
- ②銀行業・証券業・保険業の相互参入の一部自由化
- ③独占禁止法改正（1997年）→金融機関の持株会社設立が可能に

金融の自由化により、金融機関間での競争が激しくなり再編や統合が行われ、バブル経済以前 20 行あった都市銀行は 3 大メガバンク（みずほフィナンシャルグループ、三菱 UFJ フィナンシャルグループ、三井住友フィナンシャルグループ）とりそなグループを合わせた 4 つのグループに集約されたこと、消費者にとっては金融サービスの選択の幅が増えた反面、一人一人が自分とお金との関わり方について主体的に考え、能動的に行動する必要性が高まっていることを教科書で確認しました。

次時は市場経済における投資の役割、投資と投機の違いなどを学習することが伝えられ、授業は終了しました。



2 時間目 2021 年 10 月 12 日（火）10:05～11:00

2 時間目のテーマは「市場経済における投資の役割を理解する」です。

現代社会の諸課題から、市場機能の限界と市場経済における投資の役割について理解していきます。

はじめに、前時の振り返りを行いました（資料集参照）

- ①民間銀行の業務：預金・貸出・為替
- ②中央銀行の業務：銀行の銀行、政府の銀行、発券（紙幣）銀行
- ③中央銀行が景気を安定させる方法：市場における通貨流通量の調整を行い、景気変動の幅を可能な限り小さく抑える
- ④③の流れを何と言うか：金融政策

続いて、市場の失敗について教科書と資料集で確認しました。

市場：資源の配分を効率的に行う場

市場の失敗：市場では資源の効率的な配分ができないものがある

- ①公共財：皆が共通に使う財・サービス 例）道路・消防
- ②外部不経済：ある活動が直接関係しない第三者に悪影響を及ぼす 例）公害
- ③独占：市場で占めるシェアが大きい企業が存在する 例）電気・ガス
- ④情報の非対称：売り手と買い手の持っている情報の差 例）消費者被害

併せて、年金制度をはじめとする社会保障制度の先細りへの懸念も踏まえ、共助や公助サポートのもと自助の必要性が高まっていることを確認しました。

次に、自助努力で資産形成を行う「投資」について確認しました。

投資と投機の違いを確認した後、資料※で投資と社会経済との関係について確認しました。

・投資（資本を投じる）：支援したい対象に長期的に資本を投じる

自分の利益だけでなく投資先の成長や利益を考えた行動

投資は「社会貢献」の側面もあり、「経済成長を支える」ことにもつながる。

家庭から出される資金は金融市場を通じて企業や政府の活動資金となり、その結果、より暮らしやすい環境や、より質の高い商品やサービスが提供されるなど、持続可能な社会形成に不可欠なものとなっている。

・投機：（機会を見て資本を投じる）：大きな利益（リターン）が見込まれる機会にのみ資本を投じる自分の利益のみ優先した行動

ここまでの学習内容を踏まえ、自分で考えたり、インターネットでリサーチしたりして投資以外の自助について Forms に回答するよう先生から指示がありました。

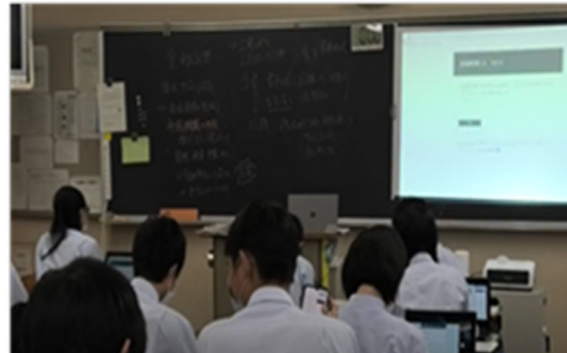
先生は回答状況を確認し、回答が完了している生徒数名の内容を発表しクラス全体で共有・確認を行いました。

【生徒の回答（抜粋）】

- ・ 早めの貯金
- ・ 自分たちの年代が老後を迎える時には年金制度が破綻しているかもしれないなど老後生活の保障がないので、若い時から貯金をしておく必要があると思う。
- ・ 老後に向けて計画を立てておく。
- ・ 定年後も働けるように、人脈やスキルを身につけておく。

次時は金融商品の種類や資産形成の具体例について学ぶことが伝えられ、授業は終了しました。

※ 「サクサクわかる！資産運用と証券投資スタートブック（2021年版）（日本証券業協会）」



3時間目 2021年10月13日（水）10:05～11:00

3時間目のテーマは、「金融商品の種類について学ぶ。金融商品が持つリスクとリターンについて理解する。金融商品の3つの特徴を理解する」です。

資産形成の方法の一つである「投資」について学習した前時を振り返りながら、金融商品の種類やそれぞれの特徴について理解していきます。

はじめに、前時の振り返りを行いました。

投資と投機の違い、投資は持続可能な社会の実現に向けて寄与できる行動であることを踏まえ、投資とSDGsの関係性について自身の考えをFormsに記入するよう先生から指示がありました。

【生徒の考え（抜粋）】

- ・環境への配慮や人権問題など世界の課題となっている問題に対して、自主的に活動する行動力と資金のある企業は信頼性があり、多くの人が投資するべきだと思う。
- ・倫理的に正しい経営を行っている企業に投資する。社会や環境、ガバナンス（企業統治）に配慮し、どれだけ社会や働く人に貢献できているかという非財務情報を基準にして投資先を選ぶということ。
- ・SDGsを考えた商品を開発している会社には投資する。社会や環境に配慮していない会社には投資しない。海外から商品を輸入するときには労働者の人権に配慮しているか確認する。

次に、代表的な金融商品である「銀行預金」、「株式投資」、「投資信託」について、教科書と「知っておきたいお金の話」で確認しました。

- 銀行預金：大きな利益は得られないが、資金を安全に管理できる
- 株式：定期的に配当金がもらえるほか株式の値上がりによる譲渡益を得られるが、値下がりする可能性もある
- 投資信託：多くの人からお金を集めて運用の専門家に委譲し運用してもらう。その成果として生じた利益が還元される

続いて、資産運用や投資の意義について動画※を視聴し確認しました。

投資の資金は当面使う予定のないお金（10～20年後に使うお金）を使用すること、投資を行うことは資産形成だけでなく、今必要としている国や企業にそのお金を使ってもらうことで経済成長を支える役割を担う意義があることを確認しました。

また、SDGsの達成に向けて取り組む企業や団体へ投資する金融商品もあり、こうした金融商品へ投資を行うことで、個人でもSDGsの達成に貢献することが可能になることが分かりました。

最後に、「金融商品の3つの特徴」と、投資をする際の「リスク回避のための3つのポイント」を確認しました。

【金融商品の3つの特徴】

- 安全性：元本（元手）や利子の支払いが確実か
- 収益性：期待できる収益の大きさか
- 流動性：必要なときにすぐに換金できるか

【リスク回避のための3つのポイント】

- 長期：長期間投資することでリスクを避ける（時間の経過とともにリスクは小さくなる）
- 分散：投資先を1つにしぼらず分散することでリスクを避ける
- 積立：同じ商品を定期的に一定額購入することで株価変動リスクを避ける

次時は資産形成（投資）における金融リテラシーの必要性について学ぶことが伝えられ、授業は終了しました。

※ 「日本証券業協会 知って得する！資産運用の基礎知識 #3 資産運用の基礎知識」

<https://www.youtube.com/watch?v=JmrMaDPR5MU>



4 時間目のテーマは、「資産形成における金融リテラシーの必要性を理解する」です。

金融商品の種類や特徴について学習した前時を振り返り、金融リテラシーを高めることや身につけることにより、安定した資産形成が可能になることを理解していきます。

はじめに、前時の振り返りを行いました。

資金を安全に貯めることを重視したものが「預貯金」、貯めることよりも増やすことを重視したものが「投資」であること、「投資」に適したお金は時間をかけてでも増やしたいお金で、生活に必要なお金や近い将来に使う予定があるお金は向かないこと、今お金を必要としている国や企業に投資すること、社会的課題の解決や経済成長を支える役割を担う意義があることを確認しました。

次に、安定した資産形成における金融リテラシーの必要性について考えていきます。

はじめに「金融リテラシー」について確認しました。

金融リテラシー：金融に関する知識や情報を正しく理解し、主体的に判断することができる能力

【金融リテラシーを高めるメリット】

■生活設計に沿った家計管理、お金の使い方ができる

今後の人生設計に沿って計画性を持ったお金の使い方をしたり無駄な支出をおさえるなど、適切な収支バランスを保つことができるようになるため、余裕をもった家計管理ができるようになる。

■資産形成に役立つ

リスクやリターンなどそれぞれの金融商品の特徴を理解することで、金融商品への投資でお金を増やすことも可能になる。

■消費者被害を避けられる

金融商品に関する正しい知識を身につけることで、投資詐欺などの被害に遭うリスクを避けることができる。

ここで先生から、次の問いに対して Forms に回答するよう指示がありました。

問：金融リテラシーを高めるためには、それぞれがどのように行動していくことが必要ですか。

【生徒の回答（抜粋）】

- ・様々なことに自ら興味関心を持つことでそれらの知識が身につき、身についた知識を他者と共有することにより活用できるようになると思う。
- ・周囲の人とコミュニケーションを取るようになる。何かあったときに他人に任せきりにしないようにする。
- ・経験を積む。経験にもとづいて自分で適切な行動とは何か、行動の結果どのようなことが起こるのかを考える。

金融リテラシーを高めていくには、正しい知識を身につけ、それらの知識を周囲の人と共有し、行動の結果にもとづき知識をアップデートしていく必要があること。また、金融リテラシーを高めることにより、貯蓄や投資を行う際にも正しい知識にもとづく適切な判断が出来るようになり、家計の状況や将

来に向けた生活設計を踏まえた行動が出来るようになり、安定した資産形成が可能になることを理解しました。

最後に、次時授業のテーマである「公共の福祉」について確認しました。

公共の福祉：社会全体の利益であり、ほかの人の人権との衝突を調整するための原理

基本的人権は自分ひとりだけのものではないので、国民が他人の権利を侵害するような使い方（＝権利の濫用）をしてはならず、社会全体がよくなる（＝公共の福祉）ように権利を利用する責任がある。

公共の福祉の観点から投資を考える場合には、個人の資産形成だけでなく投資先の企業や団体が、持続可能な社会の実現に向けて社会的課題の解決に取り組んでいるかなどがポイントになると考えられます。

ここで先生から、次の問いに対して Forms に回答するよう指示がありました。

問：公共の福祉に貢献していないのではないかと疑問に思う投資事例を記入してください。

【生徒の回答（抜粋）】

- ・ 環境汚染が想定される計画を推し進めている企業へ投資を行うこと。
- ・ リターンを求め大企業に投資をする人が増えると、その業界の他社や中小企業の成長や発展が妨げられ、倒産などが発生してしまう。
- ・ 売上や実績は良いかもしれないが、長時間労働や社員への不利益などが常態化しているブラック企業へ投資を行うこと。

次時は全5時間授業のまとめを行うことが伝えられ、授業は終了しました。



5時間目 2021年10月26日（火）14:35～15:30

5時間目のテーマは、「資産形成と公共の福祉について考える」です。

資産形成の意義と課題について、1～4時間目の学習内容を踏まえて考察していきます。

はじめに、前時までに学習した「投資」について振り返りを行いました。

投資は個人の資産を増やすためだけでなく、今お金を必要としている国や企業に投資をすることで、社会的課題の解決や経済成長を支える役割を担う意義があることを確認しました。

先生からは、社会への貢献や影響を踏まえ、投資先や投資内容を選定する動きを加速させる「SDGs投資・ESG（環境：Environment 社会：Social ガバナンス：Governance）投資」について補足がありました。SDGs投資・ESG投資は、差別や貧困、環境、教育などの課題解決を図る活動を行う企業や団体への投資の優先度を上げるもので、アルコールやギャンブル、たばこなどを扱う企業は投資対象としない金融商品があることが伝えられました。

次に、「投資を公共の福祉（社会全体の利益につながる）の観点から考えた場合、投資はどうあるべきか」という問いに、グループで討議し意見をまとめていきました。先生からは討議やまとめに際し、1～4時間目に学習した資料やインターネット検索での情報収集、収集した情報の整理と活用を意識して進めるよう指示がありました。

意見を出し合いながらまとめを進めるグループ、インターネットでSDGs投資やESG投資の具体事例を確認しながら話し合いを行うグループ、一人の意見にそれぞれの意見や考えを加えながら全体の意見としてブラッシュアップしていくグループなど、それぞれに活動を進めていきました。

意見がまとまったグループからFormsに回答し、全体で共有・確認しました。

【各班の意見】

1班	富裕層の人が投資をして、投資で得た成果を社会に還元することで、様々な企業が経営規模を拡大でき、技術発展による製品の大量生産や価格低下により、社会基盤を築くことができると考えるので、富裕層に投資を促す社会にしていけばよいのではないかと。
2班	・将来的に地球全体の課題を解決することを目標にしている企業や団体に優先して投資を行う。 ・一人一人が積極的に投資行動に参加する。
3班	・社会情勢を踏まえたうえで、どのような目的で投資を行うか考える必要がある。 ・投資を社会全体の利益につなげるという視点で考えると、助け合いとも捉えることができるので、それぞれが積極的に参加していくべきであると思う。
4班	義務教育のカリキュラムなどに金融経済教育を取り入れることで、投資などへの理解を深めつつ、正しいリテラシーを身につけたうえで、投資を行う人が増えていくよう国家レベルで推進していく。それにより、公共の福祉の観点からも、主体的に投資を行う人材を増やしていくことが大切だと思う。
5班	自分が応援している企業に投資することも良い行動だと思うが、温暖化など地球規模の環境問題に取り組む企業に投資するグリーン投資など、間接的ではあるが個人が環境問題の解決に寄与することも必要だと思う。

6 班	表面的な利益だけを考えるのではなく、その商品やサービスがどのようにして提供されているのか背景までを見極め、その投資が社会的にどのような影響を与えるのかを考えることが必要。
7 班	公共の福祉とは何かということ、社会全体の利益を生み、よりよい社会を作ろうと行動することである。よって、自分だけの利益または目先の利益だけにとらわれず、長期的に皆が利益を得られるような投資をすべき。情けは人のためならず。
8 班	投資は、社会にお金を循環させる要素の一つとして重要な存在である。また、多少のリスクはあるものの、投資のメリットである少額でも投資に参加できることを多くの人に認知してもらうことで、投資における社会課題の解決への寄与などが活発になると思う。
9 班	儲ける（儲かる）ことだけでなく、社会にどれだけ貢献できているかの指標が明確な投資であるべき。展示会のような場を設けて、それぞれが投資したい分野に投資できるよう自由であるべき。
10 班	投資は自分のため、その結果（副産物）として社会課題の解決など社会貢献出来ればよいのではないか。自分の利益を追求し続けることで、社会全体にもお金が循環すると考える。

最後に先生から、投資は個人の資産形成だけでなく、投資先の企業や団体の活動を通して個人では難しい社会的課題の解決や持続可能な社会の実現に向けた取組みに参加できる仕組みであること、金融に限らず様々な事柄において、個人の利益だけでなく社会の発展や利益の拡大につながるかを考え行動してほしい旨が伝えられ、全5時間の授業は終了しました。

